

◆ **今週のコメント** (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **E型肝炎**の報告が1例(60歳代男性)があり、症状は発熱、全身倦怠感、黄疸、肝機能異常です。感染地域、感染経路は不明です。本年初めての報告です。

本市において、平成28年は1例、平成29年は1例、平成30年は2例、昨年は2例の報告がありました。本疾患の届出基準や届出に必要な要件等については、下記のホームページを御覧ください。

○厚生労働省ホームページ「E型肝炎」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-01.html>

- ・ **梅毒**の報告が1例(30歳代男性)ありました。症状はありません。感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は3例となりました。

梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。

○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を匿名で実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

- ・ **百日咳**の報告が4例(10歳未満女性3例及び30歳代女性1例)(すべて第2週追加報告)ありました。本年の累積報告数は5例となりました。

◆ **今週のトピックス: <インフルエンザ>**

今週のインフルエンザ定点当たり報告数は、京都市が13.77(前週15.48)、全国が16.73(前週18.33)と前週から減少しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 5例(肺結核 1例, その他結核なし, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性なし
【1月以降の累積報告数 13例(肺結核 6例, その他結核なし, 潜在性結核感染者 7例)うち喀痰塗抹陽性 2例】
- ・ 四類: E型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 百日咳 4例【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	13.77	950
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.67	201
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.47	63
	③ 水痘	0.47	20
	④ RSウイルス感染症	0.35	15
	⑤ 咽頭結膜熱	0.23	10
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

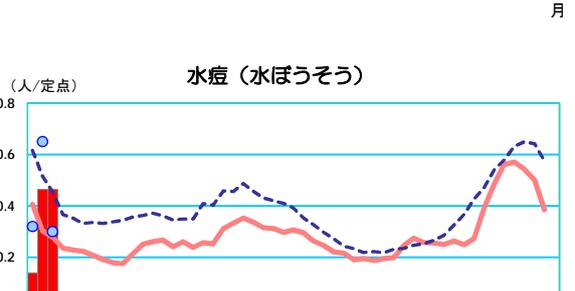
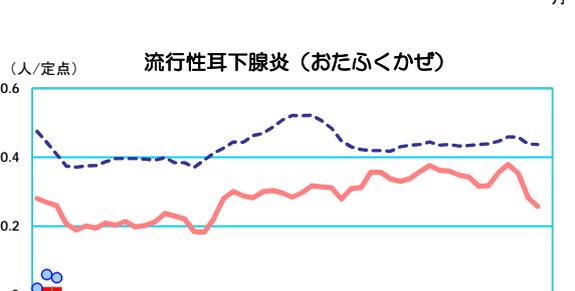
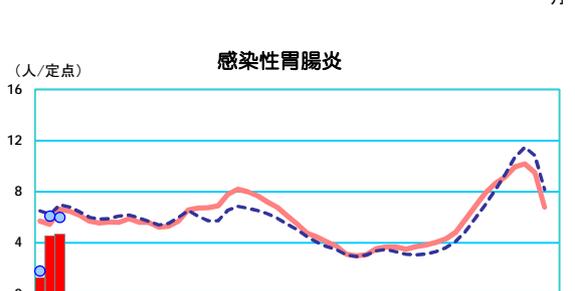
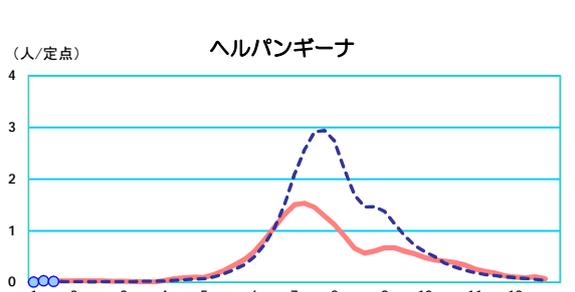
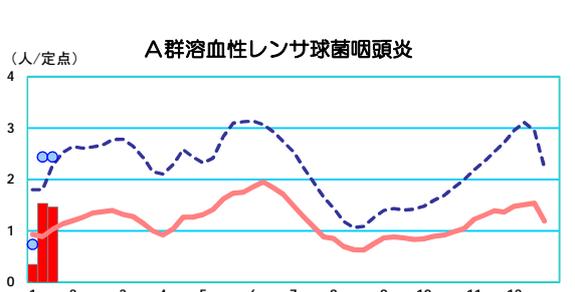
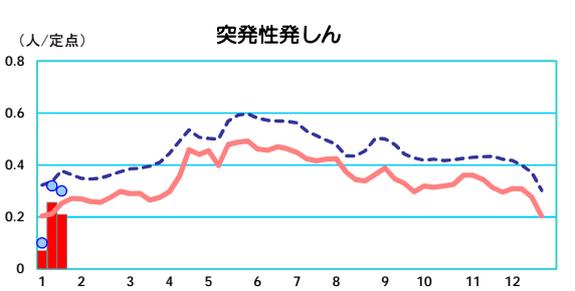
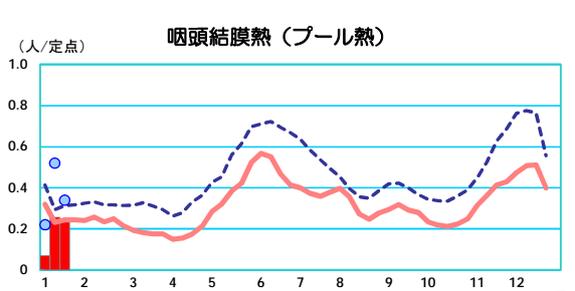
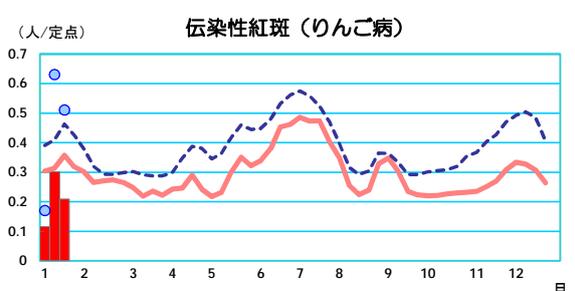
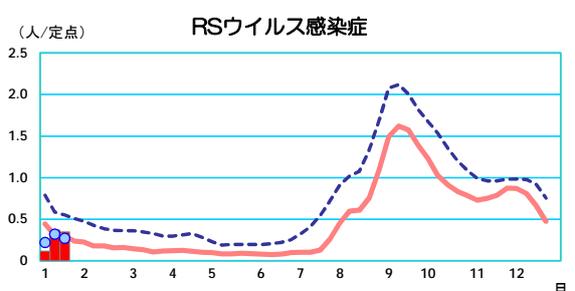
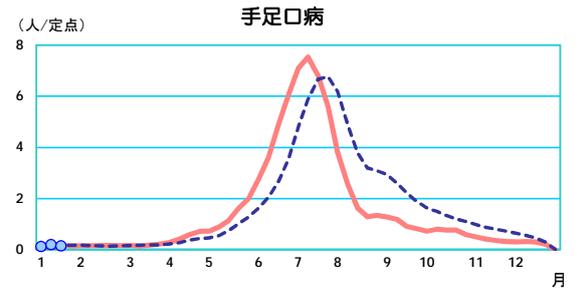
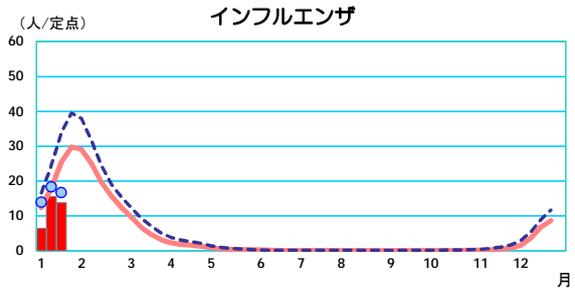
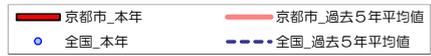
インフルエンザ*及び小児感染症の疾病別推移グラフ / インフルエンザ*及び小児感染症の発生状況地図 / 今週のトピックス: <インフルエンザ> 付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2020年1月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

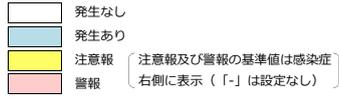
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

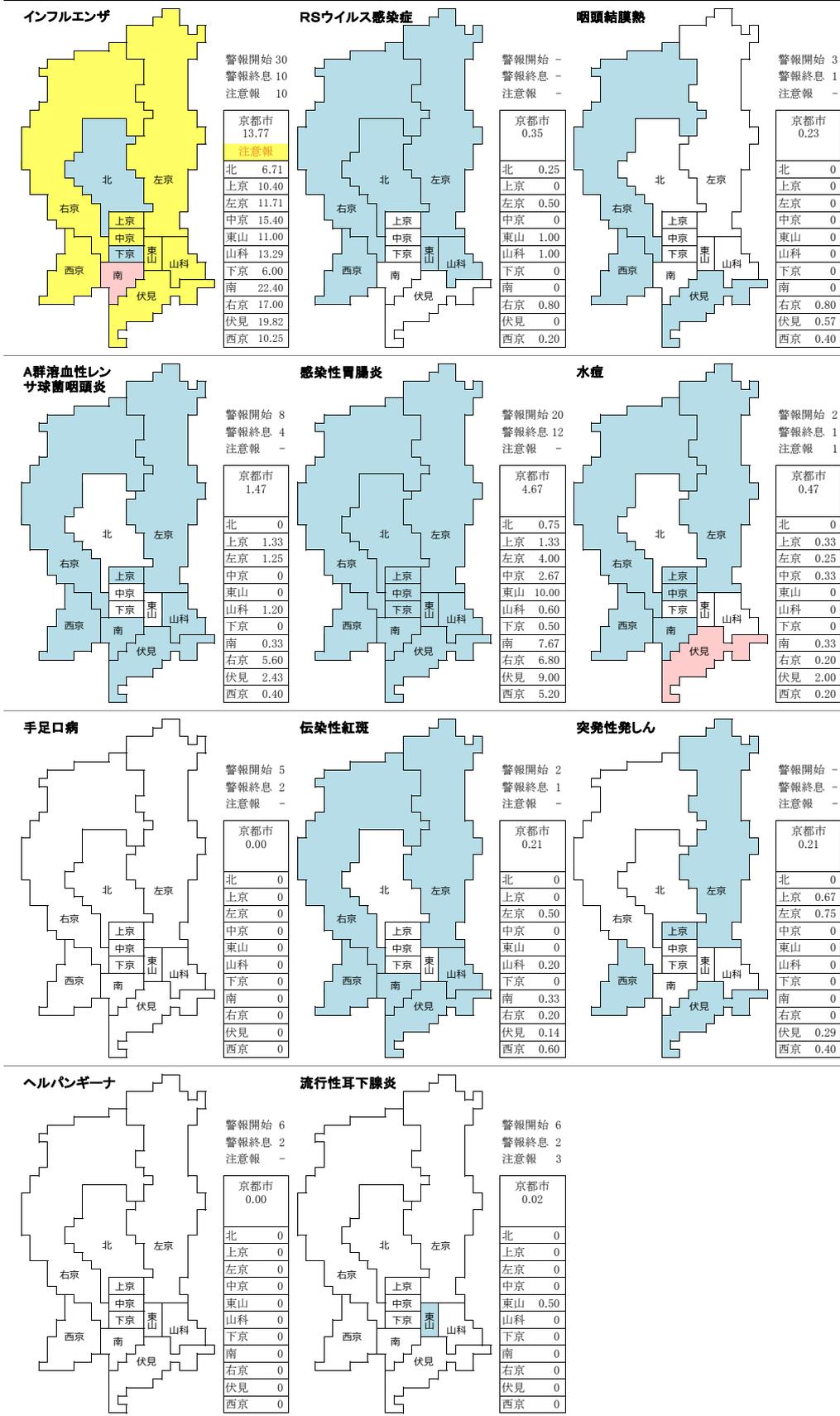
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第3週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第3週(1月13日～1月19日)トピックス: <インフルエンザ>

今週のインフルエンザ定点当たり報告数は、京都市が13.77(前週15.48)、全国が16.73(前週18.33)と前週から減少しました。現在、本市及び全国共に注意報レベルとなっていますが、過去5年平均値の推移では、例年は1月中旬から2月にかけて報告数がピークになるため予断を許さない状況であり、今後の発生動向に注意が必要です(図1)。

インフルエンザも含めてあらゆる感染症は、1)感染源、2)感受性のある宿主及び3)感染経路(図2)の3つの要件がすべて揃わなければ感染が成立しません。したがって、感染症対策は、この3つの要件が揃わないようにすることです。

- 1) インフルエンザの「感染源」は、多くの場合感染している人(患者)ですが、不顕性感染や、回復して症状がなくなった人もある程度の期間は病原体を排出することがあります。病原体を排出する可能性のある方は、できるだけ他の人と接する機会を避けるようにし、咳エチケットを徹底し、使用したティッシュなどを他の人が触れないように処理し、こまめに手洗いをすることが重要です。
- 2) 「感受性のある宿主」とは、免疫力が弱っていたり、抗体が十分でない状態の人のことです。ワクチン接種や十分な休養とバランスの取れた栄養摂取が感染症対策となります。
- 3) 「感染経路」はインフルエンザの場合、飛沫感染のほか、接触感染や空気感染があります。飛沫感染に対してはマスクを正しく装着し、なるべく患者の2m以内に近づかないということが防御策と考えられますが、よく使われている不織布製のマスクは、患者の唾液などを周囲に飛ばさないことを想定して作られており、防御策としての効果は限定的と言われているため、過信は禁物です。また、鼻を出したり鼻の形状に合わせる金具(ノーズピース)を抑えていないなどの着用方法の誤りは、さらに効果を減少させます。プリーツタイプの正しい装着方法は、ひだを上下に広げて顔に当て、ノーズピースを鼻の形に合わせ、あごの下まで伸ばし、顔にフィットさせながら耳にひもをかけます。

飛沫感染や接触感染対策の基本は流水・石鹸による手洗いで、手指など体についたインフルエンザウイルスを除去するために有効な方法です。インフルエンザウイルスにはアルコールによる手指消毒も効果があります。

このほかのインフルエンザ発生状況の詳細や予防対策については下記URLを御参照ください。

- インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- インフルエンザの発生状況について(健康安全課のホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051303.html>

図1 本市及び全国の定点当たり報告数の推移

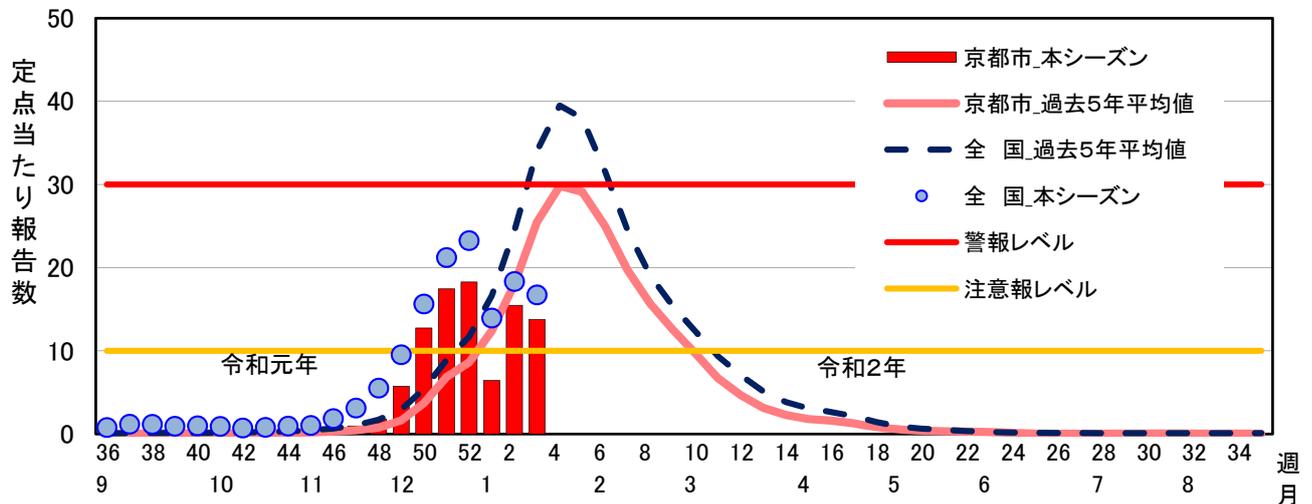
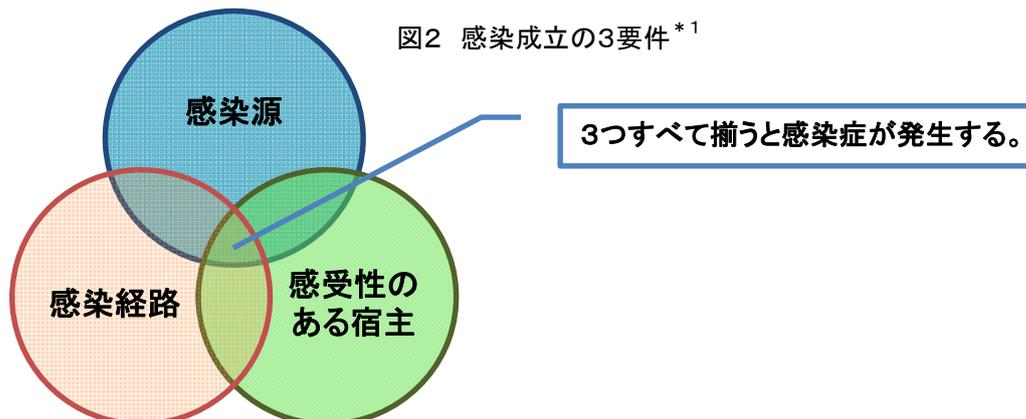


図2 感染成立の3要件*1



*1 和田耕治他, 新型インフルエンザ対策から学ぶ包括的な感染症対策, p94-99, 保健医療科学, Vol.59, No.2(2010)より

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第3週

疾病,行政区別報告数

2019年1月13日～2019年1月19日

データ入手日:2020年1月22日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	47	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	52	-	-	4	4	1	-	-	2	-	-	-	-						
左京	82	2	-	5	16	1	-	2	3	-	-	-	1						
中京	77	-	-	-	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	33	2	-	-	20	-	-	-	-	-	1								
山科	93	5	-	6	3	-	-	1	-	-	-	-	-						
下京	18	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-								
南	112	-	-	1	23	1	-	1	-	-	-								
右京	136	4	4	28	34	1	-	1	-	-	-	-	1						
伏見	218	-	4	17	63	14	-	1	2	-	-	-	-						
西京	82	1	2	2	26	1	-	3	2	-	-	-	-						
京都市計	950	15	10	63	201	20	-	9	9	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	6.71	0.25	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	10.40	-	-	1.33	1.33	0.33	-	-	0.67	-	-	-	-						
左京	11.71	0.50	-	1.25	4.00	0.25	-	0.50	0.75	-	-	-	1.00						
中京	15.40	-	-	-	2.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	11.00	1.00	-	-	10.00	-	-	-	-	-	0.50								
山科	13.29	1.00	-	1.20	0.60	-	-	0.20	-	-	-	-	-						
下京	6.00	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-								
南	22.40	-	-	0.33	7.67	0.33	-	0.33	-	-	-								
右京	17.00	0.80	0.80	5.60	6.80	0.20	-	0.20	-	-	-	-	1.00						
伏見	19.82	-	0.57	2.43	9.00	2.00	-	0.14	0.29	-	-	-	-						
西京	10.25	0.20	0.40	0.40	5.20	0.20	-	0.60	0.40	-	-	-	-						
京都市計	13.77	0.35	0.23	1.47	4.67	0.47	-	0.21	0.21	-	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第3週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年1月13日～2019年1月19日

データ入手日:2020年1月22日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	950	5	15	55	56	51	51	55	44	50	50	37	116	44	40	90	71	56	36	15	13	
RSウイルス感染症	年齢3	15	2	2	5	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		10	-	1	3	4	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		63	-	-	1	4	7	9	15	5	6	2	4	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		201	2	13	38	19	22	13	20	15	6	3	6	23	4	17	-	-	-	-	-	-	-
水痘		20	-	-	4	4	2	-	1	2	2	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		9	-	-	2	-	3	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		9	1	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	13.77	0.07	0.22	0.80	0.81	0.74	0.74	0.80	0.64	0.72	0.72	0.54	1.68	0.64	0.58	1.30	1.03	0.81	0.52	0.22	0.19	
RSウイルス感染症	年齢3	0.35	0.05	0.05	0.12	0.12	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.23	-	0.02	0.07	0.09	-	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.47	-	-	0.02	0.09	0.16	0.21	0.35	0.12	0.14	0.05	0.09	0.09	0.02	0.12	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.67	0.05	0.30	0.88	0.44	0.51	0.30	0.47	0.35	0.14	0.07	0.14	0.53	0.09	0.40	-	-	-	-	-	-	-
水痘		0.47	-	-	0.09	0.09	0.05	-	0.02	0.05	0.05	0.07	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.21	-	-	0.05	-	0.07	-	0.02	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.21	0.02	0.05	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	0.10	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第3週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年1月22日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	889	1,205	1,261	444	1,068	950
RSウイルス感染症	14	17	20	5	16	15
咽頭結膜熱	18	31	23	3	11	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	96	79	89	15	66	63
感染性胃腸炎	248	299	312	55	196	201
水痘	35	35	19	6	20	20
手足口病	15	17	16	2	4	-
伝染性紅斑	18	15	13	5	13	9
突発性発しん	9	11	6	3	11	9
ヘルパンギーナ	2	4	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	5	2	-	-	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	2	2	-	7	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1,351	1,717	1,761	539	1,413	1,280

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	12.88	17.46	18.28	6.43	15.48	13.77
RSウイルス感染症	0.33	0.40	0.47	0.12	0.37	0.35
咽頭結膜熱	0.42	0.72	0.53	0.07	0.26	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.23	1.84	2.07	0.35	1.53	1.47
感染性胃腸炎	5.77	6.95	7.26	1.28	4.56	4.67
水痘	0.81	0.81	0.44	0.14	0.47	0.47
手足口病	0.35	0.40	0.37	0.05	0.09	-
伝染性紅斑	0.42	0.35	0.30	0.12	0.30	0.21
突発性発しん	0.21	0.26	0.14	0.07	0.26	0.21
ヘルパンギーナ	0.05	0.09	-	0.02	-	-
流行性耳下腺炎	0.12	0.05	-	-	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.20	0.20	-	0.70	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	23.78	29.52	30.06	8.64	24.04	21.60

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。